

## 2010年の中国自転車業界動向分析報告 「中国自転車」4月号

中国自転車協会（CBA）は、2010年の中国自転車及び電動自転車産業についての分析を機関誌「中国自転車」4月号に発表したもので報告する。

---

2010年の国内外のマクロ経済は極めて複雑な一年であった。特に、世界の主要国の景気回復過程と内実是非常に不均衡なものだった。このため、回復と調整が年間の業界経済動向の基本的な特徴となっている。一方、国際市場の需要が回復するにつれて、自転車・電動自転車輸出は金融危機前の水準にまで急速に回復した。他方、国内の自転車・電動自転車市場の構造調整は継続して深化すると同時に、新興輸出市場は急速な発展を続けた。

### 一、生産経営状況

#### 1. 総生産量

国家統計局の一定規模以上の企業を対象とした統計によると、2010年の全国自転車総生産量は5,901.8万台で、前年比10.3%増、電動自転車は1,136.8万台で、前年比29.7%増だった。

各主要生産地の業界協会提供数値をまとめると、2010年の全国の自転車の総生産台数は8,159.8万台で、前年比7.3%増、電動自転車は2,954.4万台で、前年比24.7%増だった(表1参照)。

表 1 2007～2010 年中国自転車、電動自転車地域別生産台数

	総生産量/万台				自転車/万台				電動自転車/万台			
	2010	2009	2008	2007	2010	2009	2008	2007	2010	2009	2008	2007
天津	4,940.7	4,302.0	4,732.7	4,703.5	3,597.5	3,474.0	4,081.5	4,053.7	1,343.2	828.0	651.2	649.9
河北	233.5	207.0	320.4	25.3	229.8	205.0	318.2	20.2	3.7	2.0	2.2	5.1
遼寧	1.2	-	-	-	-	-	-	-	1.2	-	-	-
上海	706.6	673.0	717.2	978.8	☆512.8	☆507.0	595.1	817.2	193.8	166.0	122.1	160.8
江蘇	1,575.0	1,347.0	1,169.0	1,333.2	834.6	☆695.0	639.0	829.1	740.4	652.0	530.0	504.1
浙江	2,532.2	2,211.0	2,177.0	2,148.9	1,880.0	1,709.0	1,680.0	1,705.5	652.2	502.0	497.0	443.4
安徽	25.6	6.0	-	-	-	-	-	-	25.6	6.0	-	-
江西	16.0	14.0	0.1	-	-	-	0.1	-	16.0	14.0	-	-
山東	451.3	398.0	342.1	309.7	70.2	60.0	51	51.1	381.1	338.0	291.1	258.6
河南	132.8	55.0	16.9	-	13.3	9.0	16.9	-	119.5	46.0	-	-
湖北	0.1	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	-	-
広東	1,016.1	936.0	1,417.7	1,418.9	980.0	895.0	1,337.7	1,347.7	☆36.1	41.0	80.0	71.2
広西	3.3	4.0	5.6	-	2.9	4.0	5.6	-	0.4	-	-	-
重慶	13.5	3.0	-	-	9.6	-	-	-	3.9	3.0	-	-
四川	29.1	47.0	51.2	-	29.1	47.0	36.2	-	-	-	15.0	-
陝西	1.2	1.0	1.2	-	-	1.0	1.2	-	1.2	-	-	-
その他	-	-	-	131.5	-	-	-	58.7	-	-	-	72.8
合計	*11,114.2	9,975.0	10,951.1	*10,851.3	*8,159.8	7,606.0	8,762.5	*8,713.1	*2,954.4	*2,369.0	2,188.6	*2,138.2

注 1 : ☆印は国家統計局から引用した数値。

注 2 : 加工が複数の地域にまたがる場合、重複する場合がある。\*印はそれを避けるため  
中国自転車協会が調整した数値。

注 3 : 2007 年、2008 年、2009 年の数値については、比較の為国際業務部で追記。

## 2. 生産販売率

国家統計局の一定規模以上の企業を対象とした統計によると、2010年全業界の累計実現工業生産総額は850.2億円で、前年比22.4%増だった。工業販売生産総額は844.2億円で、前年比24.2%だった。生産販売率は98%に達し、前年同期と同じで、業界の生産販売状況は良好である。

## 3. 収益能力

国家統計局の統計によると、2010年の業界の一定規模以上の企業の利益は27.0億円で、前年比36.8%増だった。主要業務収入742.5億円で、前年比25.3%増だった。2010年の販売利益率は前年同期の3.2%増から3.6%に上昇し、業界全体収益能力は継続して向上した。

## 4. 資金保有状況

国家統計局の統計によると、2010年の業界の一定規模以上の企業の完成品の在庫は31.2億円で、前年比4.3%減だった。正味売掛金額は106.6億円で、前年比21.5%増だった。製品在庫と売掛金額137.8億円で、総生産額の16.2%を占め、生産、販売共に旺盛で資金保有状況は正常である。

## 二、輸出入状況

2010年の輸出入総額は前年比27.0%増、49.8億米ドルに達した。自転車の年間輸出台数は5,816.0万台、前年比26.1%増、輸出金額は26.1億ドル、前年比22%増となった。

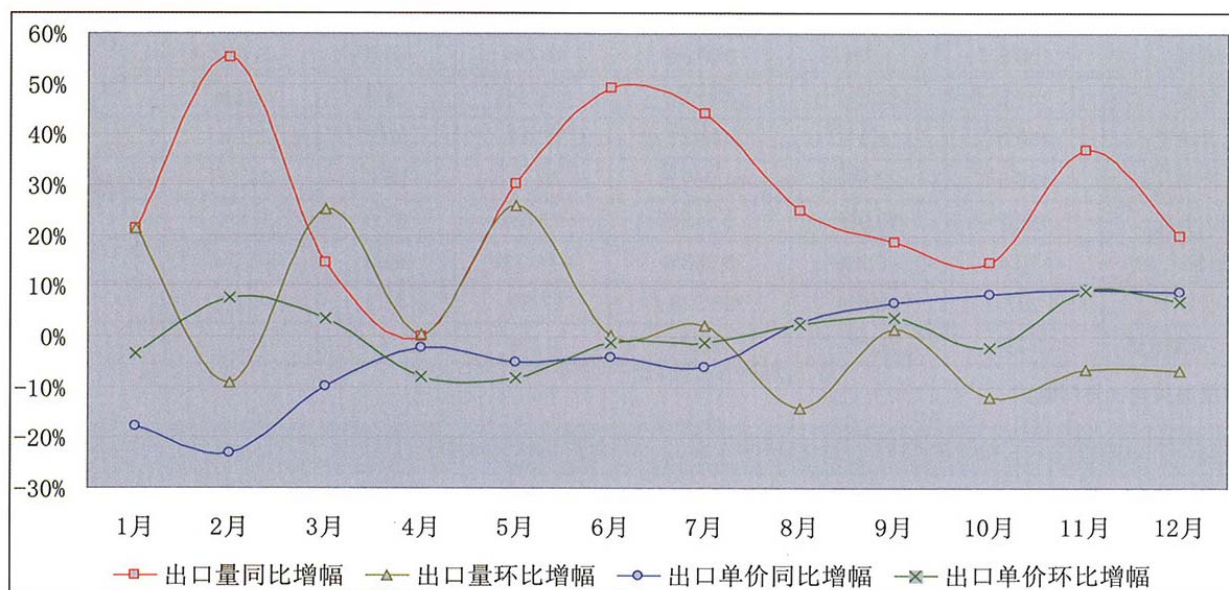
電動自転車の年間輸出台数は58.5万台、前年比44.6%増、輸出金額は2.4億ドル、前年比57.8%増となった。部品の年間輸出金額は18.1億ドル、前年比28.2%増となった。

輸入については、自転車の年間輸入台数は2.7万台、前年比29.8%増、輸入金額は0.1億ドル、前年比89.9%増となった。部品の輸入金額は3.1億ドル、前年比45.9%となった。

### 1. 自転車の輸出

①輸出の回復が顕著である。世界金融危機の輸出に対する影響は2009年末から次第に弱まりつつあり、自転車の輸出量は増加し続けている。特に5月、6月、7月の三カ月の自転車の単月の輸出量は600万台に近づいた。年間輸出総量は既に危機前の2008年を超え、2007年の5,922.6万台の過去最高値に近づいた。自転車輸出は力強さを呈し続け、迅速かつ安定的に回復し、平均単価は図1のように低価格で推移した。

図1 2010年自転車月別輸出量の変化の傾向図



(□) 輸出量前年比増加幅、 (△) 輸出量前月比増加幅、 (○) 輸出単価前年比上昇幅、 (×) 輸出単価前月比上昇幅

②輸出製品の構成に変化はない。MTBの輸出の増加幅は小さくなり、輸出全体に占める割合は前年の17%から16%弱にさらに減少して小さくなった。その他の自転車(小径車)の増加は速く、輸出全体に占める割合は小幅上昇して27.4%になった(表2参照)。

表2 2010年自転車輸出車種別統計表

商品名称	輸出量/万台	増減/%	輸出額/万米ドル	増減/%	単価/米ドル	増減/%	輸出全体に占める割合/%
競技用自転車	14.3	-2.0	3,113.2	-0.9	218.3	1.1	0.2
MTB	913.6	17.4	71,165.3	16.4	77.9	-0.9	15.7
16, 18, 20インチクロスカントリー	1,008.2	28.5	28,345.6	45.0	28.1	12.8	17.3
その他のクロスカントリーバイク	5.7	49.0	224.3	2.7	39.4	-31.1	0.1
16インチ以下のその他の自転車	1,593.9	35.4	33,724.8	33.2	21.2	-1.6	27.4
その他の自転車	2,280.3	23.0	124,638.4	19.0	54.7	-3.2	39.2
合計	5,816.0	26.1	261,211.5	22.0	44.9	-3.3	100.0

(注：税関統計資料を基に作成)

③主要輸出市場はおしなべて拡大した。2010年、米国、日本、インドネシア等従来からの主要市場は安定を保つか、又は大幅に拡大した。そのうちインドネシア、インド及びロシア向け完成車輸出数量は前年比50%増以上だった。インド、韓国及びマレーシア向け輸出の数量と金額はともに上

昇した。アセアン向け完成車輸出は 637.5 万台に達し、輸出総量に占める割合は 11%に達した(表 3 参照)。

表 3 主要国及び地域の 2010 年自転車輸出統計表

国名	台数	増減／%	金額	増減／%	単価	増減／%	全体に占める割合/%
米国	1,931.5	34.9	90,277.5	37.4	46.7	1.8	33.2
日本	799.3	-1.2	58,079.8	-0.7	72.7	0.4	13.7
インドネシア	367.3	57.9	9,922.3	44.3	27.0	-8.6	6.3
ロシア連邦	243.7	95.4	9,082.9	71.3	37.3	-12.3	4.2
韓国	166.8	1.7	9,973.2	10.8	59.8	9.0	2.9
インド	157.8	87.5	4,471.6	116.5	28.3	15.5	2.7
マレーシア	150.0	12.5	4,493.5	15.9	30.0	3.1	2.6
イラン	138.5	28.8	4,980.4	73.4	36.0	34.7	2.4
オーストラリア	132.2	16.9	8,143.3	17.4	61.6	0.4	2.3
カナダ	110.4	-6.3	5,953.8	-11.3	53.9	-5.3	1.9
合計	4,197.5	26.5	205,378.4	22.3	48.9	-3.3	72.2
全体に占める割合/%	72.2%	0.3	78.6	0.3	-	-	-

(注：税関統計資料を基に作成)

そして EU によるアンチダンピング措置の影響を受け、我が国の EU 向け輸出は既に連続 2 年 100 万台を下回っており、2010 年は僅かに 87.2 万台となった。

主要輸出市場においてはおしなべて拡大していると同時に、アジア、アフリカの発展途上国の市場の需要も急速に拡大する形勢を呈している。輸出増加が最も早い上位 10 の仕向地の前年比増加幅は全ておおよそ 1 倍を超え、そのうちイラク向け輸出の増加量は最大、増加速度は最も速く、前年比 26.4 万台の増加で、186.3%増となった。但し、輸出規模はおしなべて小さくなく、輸出増加が最も早い上位 10 カ国・地区は輸出全体の僅か 4.2%を占めるだけで、金額においては 3%にも満たず、輸出単価は依然低く、完成車輸出状況に対する影響はまだ非常に限定的である(表 4 参照)。

表4 2010年自転車輸出における最も急速に増加した国及び地域の統計表

国名	台数	増減/%	金額	増減/%	単価	増減/%	全体に占める割合/%
イラク	40.6	186.3	1,085.9	232.8	26.7	16.2	0.7
フィンランド	15.3	156.5	515.8	207.4	33.7	19.9	0.3
ミャンマー	15.9	156.1	519.8	164.3	32.8	3.2	0.3
ウルグアイ	17.1	139.1	752.5	160.6	43.9	9.0	0.3
パナマ	45.2	138.9	936.2	135.6	20.7	-1.4	0.8
パラグアイ	15.2	129.5	369.4	88.8	24.3	-17.7	0.3
コロンビア	12.0	115.6	348.7	71.3	29.1	-20.5	0.2
エクアドル	38.9	105.1	1,007.0	103.4	25.9	-0.8	0.7
カザフスタン	31.8	100.3	904.7	86.6	28.5	-6.9	0.5
ジンバブエ	13.8	96.1	442.9	93.1	32.1	-1.5	0.2
合計	245.8	130.8	6,882.8	130.6	28.0	-0.1	4.2
全体に占める割合/%	4.2%	83.0%	2.6%	89.0%	-	-	-

(注：税関統計資料を基に作成)

## 2. 電動自転車の輸出

2010年は電動自転車輸出が急速に拡大した。年間の累計輸出台数は58.5万台で、前年比44.6%増となった。輸出単価は上昇し続け、400米ドルを突破、409.0米ドルに達し、前年比9.1%増となった。そのうちトルコ、オランダの増加が比較的急速で、それぞれ前年比362.2%、89.0%増となった。日本、西欧、北米はやはり電動自転車輸出の主要市場である(表5参照)。

表5 2010年の電動自転車輸出主要国、地域統計表

国名	台数	増減/%	金額/万米ドル	増減/%	単価/米ドル	増減/%	全体に占める割合/%
オランダ	10.0	89.0	7,343.8	103.2	737.0	7.5	18.2
トルコ	7.3	362.2	2,044.3	369.1	279.2	1.5	13.0
日本	7.1	-3.8	1,848.4	-0.1	261.4	3.8	10.4
ドイツ	6.5	55.6	2,617.3	68.8	401.8	8.5	7.9
アメリカ	3.7	39.0	1,326.4	26.2	362.8	-9.2	6.5
イタリア	3.1	-3.0	1,033.1	-3.4	334.1	-0.4	4.3
イギリス	1.8	48.3	807.0	77.5	440.9	19.7	3.9
ベルギー	1.6	4.3	644.7	-1.3	394.3	-5.3	3.9
カナダ	1.6	-9.9	584.3	-4.4	370.7	6.1	3.1
インド	1.2	14.4	333.6	4.0	289.7	-9.2	2.9
合計	43.8	47.2	18,583.0	60.0	424.1	8.7	75.0
全体に占める割合/%	75.0	1.8	77.7	1.4	-	-	-

(注：税関統計資料を基に作成)

## 3. 部品輸出

2010年の部品輸出総額は前年比28.2%の大幅増となった。そのうち、フレーム、サドル、リム等

の製品の増加が急速で、増加幅は全て 30%を超えた。ローラーチェーンとハブの輸出増加幅は比較的小さく、それぞれ 4.5%と 9.8%だった(表 6 参照)。主要輸出市場の中で香港を除いて、その他の国、地域は全て大きく増加した。そのうちブラジル、インドネシア、ロシア等は増加幅が全て前年比 40%を超過した。

表 6 2010 年の部品輸出統計表

部品名	単位	輸出量	増減%	輸出額/万米ドル	増減%	全体に占める割合/%
ローラーチェーン	万トン	3.1	4.5	4,799.4	-3.9	2.7
フレーム、フォーク等の部品	万トン	13.6	32.6	69,458.7	27.4	38.4
リムとスポーク	万トン	6.9	43.3	16,305.4	55.1	9.0
ハブ	万トン	0.7	9.8	2,493.7	14.1	1.4
フリーホイール	万トン	1.6	17.6	4,939.6	25.9	2.7
チェーンホイール	万トン	0.1	24.8	243.4	31.6	0.1
ブレーキとその部品	万トン	3.5	21.4	10,867.9	19.1	6.0
サドル	万個	6,398.6	33.2	8,837.6	35.4	4.9
ペダルとその部品	万トン	1.9	24.3	3,950.8	26.2	2.2
クランクギアとその部品	万トン	4.3	28.6	9,257.4	29.2	5.1
その他の部品、アクセサリ	万トン	17.5	24.2	49,939.4	28.1	27.6
合計		-	-	181,093.4	28.2	100.0

(注：税関統計資料を基に作成)

#### 4. 自転車と部品の輸入

2010 年の我が国の輸入した自転車は 2.7 万台、前年比 29.8%増だった。輸入平均単価は 420.3 米ドルで、前年比 46.3%増だった。年間の部品輸入総額は 3.2 億米ドルで、前年比 47.1%増となった。

### 三、業界を取り巻く基本的な経済状況

#### 1. 鉄鋼

生産高について、2010 年全国で生産した粗鋼は 62,665 万トンで、前年比 9.3%増だった。鋼材生産量は 79,627 万トンで、前年比 14.7%増だった。鉄合金生産量は 2,436 万トンで、前年比 8.2%増だった。価格については 2010 年の国内市場の鋼材価格は全体的に揺れ動きながらも前年比 15.8%の上昇となった。4 月までは上昇したが、5 月から 7 月までは下降し、8 月分以降は再び上昇し続け、1 2 月分の国内市場の鋼材価格の総合指数平均は 126.8 となり、前年比 21.2 ポイント高くなった。6.5 ミリの鋼線、20 ミリ中厚板、そして 1.0 ミリの冷延コイルの平均単価はそれぞれ 4,702 元/トン、4,641 元/トン、そして 5,458 元/トンで、前年比 2.6%増、2.9%増、そして 1.3%増となった。

#### 2. 有色金属

2010 年の全国の 10 種類の有色金属の生産量は 3,153 万トン、前年比 17.3%増で、伸び率は前年比 11.5 ポイントだった。そのうち、電解アルミニウムの生産量は 1,565 万トン、前年比 19.9%増で、

伸び率は18.9ポイントだった。鉛の生産量は9.9%伸び、同6.6ポイント減少した。酸化アルミニウムの生産量は22.4%増で、伸び率は18ポイントだった。主要有色金属の上半期の価格は低下状況にあったが、7月は継続的に上昇し12月は僅かにダウンした。国内市場における銅、電解アルミニウム、そして鉛現物の12月の平均価格はそれぞれ64,089元/トン、16,303元/トン、そして17,248元/トンで、前年比14.3%増、1.9%増、7.9%増だった(図2、3参照)。

図2 2010年3月～2011年3月鉛価格の変動

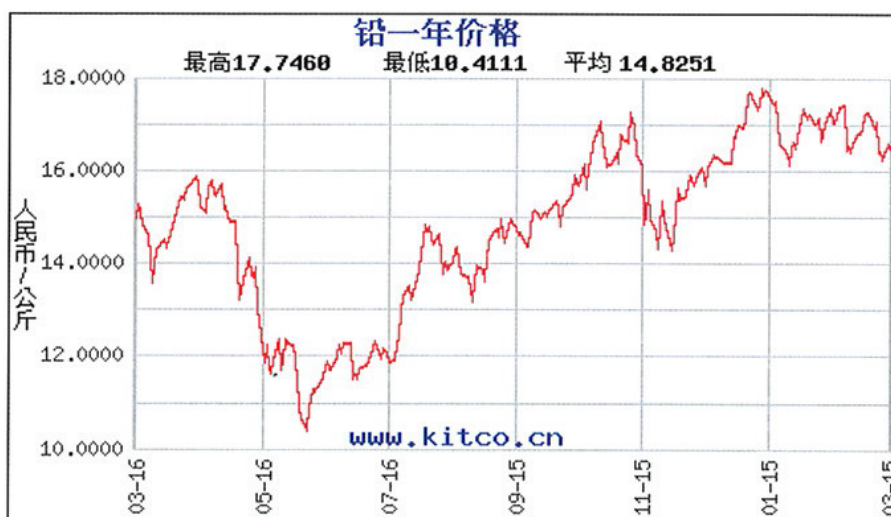
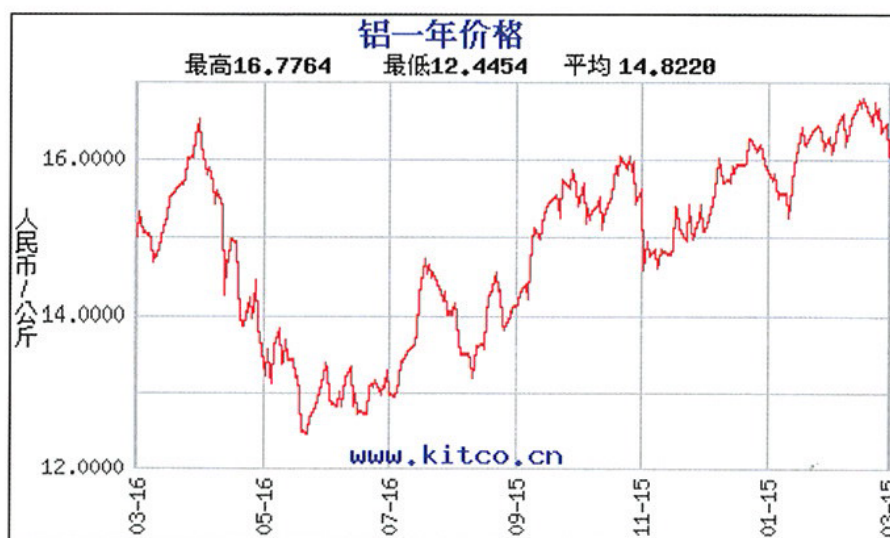


図3 2010年3月～2011年3月アルミ価格の変動



出所：KITCO

### 3. ゴム

2010年、天然ゴムの価格は大幅に上昇し、年平均価格は26,303元/トンで、前年比55.5%増となった。5、6月に国家が備蓄ゴムを放出したので僅かに上昇が抑えられた。但し、下半期の価格は再び大幅に上昇し、11月分の価格は34,000元/トンの大台を突破し、12月分は小幅低下し32,000



元／トンとなった。この影響を受けタイヤの生産コストは一直線に上昇し、タイヤの生産量はある程度調整が入り、国内外市場価格は高止まりし、あまねく上昇幅は20%を超えた。

#### 四、2011年の業界発展傾向の展望

2010年は“第十二次五カ年計画”の開始の年であり、“第十一次五カ年計画”期間の持続的発展を通して、業界発展の基礎はより一層安定したものになり、形勢は良好である。しかし、世界金融危機の影響は未だ排除されておらず、国際政治経済の構造は絶え間なく変化しているので、業界発展は国内外の形勢は更に複雑化し、不確定性と課題は増えている。

一方、我が国は新たな発展段階に入り、国内市場は急速に発展、レベルアップし、低炭素移動に対して社会全体が強く関心を示しており、公共自転車が全国の主要都市において急速に普及しており、電動自転車下郷が次第に進展している。これらは全て自転車製品のレベルアップと電動自転車の持続的発展の基礎を提供した。同時に世界全体の経済回復、特に新興発展国である中国の経済の急速な拡大は、絶え間なく自転車と電動自転車の安定拡大をもたらした。

他方、原材料価格上昇の勢いは依然として強く、鋼鉄等の特殊要因の影響を受ける領域に限らず、全面的な上昇の情勢にあるアルミニウム、鉛、ゴム、プラスチック等が依然として再び上昇する可能性を有している。上昇の要因は需給の関係のほか、資本投機の影響が大いに強くなっている。それぞれの原材料価格の変動は2010年に比べてさらに強くなりそうであり、特にタイヤの価格はさらに20%上昇する可能性がある。人件費の増加は既に避けられないものとなっており、上昇幅はあまねく10%を超えている。そのほかに世界の景気回復の基礎はまだ不安定であり、各国経済の回復のテンポは一様ではない。2010年の輸出回復の原動力の一つは市場在庫の補充である。2011年に新たな比較的大きな市場需要がないなら、それぞれの主要輸出市場の消費総量は昨年に比べ減少するかもしれない。

税関統計によると、2011年1月分の輸出は幸先良く始まり、自転車輸出量は512.2万台に達し、前年比25.7%増、前月比27.2%増だった。電動自転車輸出量は4.9万台、前年比26.2%増、前月比22.8%増だった。総合的に見ると、2011年の全国自転車生産量は8,000万台以上を継続して保持し、輸出量は小幅に減少し約5,600万台に落ち込むかもしれない。電動自転車の生産量はやはり約3,000万台を保持し、輸出量はさらに増加するだろう。但し、主要輸出市場は調整が入る可能性もあり、西欧市場の割合はさらに拡大することだろう。部品輸出は輸出額の20億ドル突破が有望である。

以 上

(国際業務部)

(発行元より許可を得て翻訳、掲載)